川崎市の行財政改革の取組について

1992 (平成4)年度「川崎市基本構想」 1993 (平成5)年度「川崎新時代2010プラン」

21世紀の第1四半世紀を見据えた長期構想

21世紀における川崎市の都市像と道筋を明らかにした計画



計画策定の時期を境にバブル経済が崩壊。それ以降景気低迷が長期化・・・本市の財政状況の逼迫を招く。 低成長経済への移行や少子高齢化の急速な進行など、たいへん大きな社会の転換期を迎える。 今までの「成長」を前提とする社会・経済のしくみを、「持続」型のしくみへと根本的に見直す必要性が高まる。

2002 (平成14)年7月 財政危機宣言

2002 (平成14)年9月「川崎市行財政改革プラン」(第1次川崎市行財政改革プラン)

取組期間:2002(平成14)年度~2004(平成16)年度の3年間 川崎再生に向けて、3つの柱に沿った行財政改革を断行し、目標を上回る効果をあげた。 行政体制の再整備 公共公益施設・都市基盤整備の見直し 市民サービスの再構築



急激な社会経済環境の変化に適切に対応するためには、次の取組が必要。

行財政改革の継続と着実な推進

改革によってめざす川崎再生の姿を具体的に示し、それに向けた新たな市政運営の基本方針の策定

2004(平成16)年12月「川崎市基本構想」

これから川崎市が進めるまちづくりの基本方針として、市政運営や政策の基本方向を掲げる具体性を持った10年程度の計画

2005(平成17)年3月 「第2次川崎市行財政改革プラン」

「川崎再生フロンティアプラン実行計画」と 緊密な連携を図りながら、まちづくりの基本 目標の実現に向けて、「第1次行財政改革ブ ラン」に引き続き、3つの柱に沿った具体的 な取組内容と改革目標を明示した3年間の 計画

2005(平成17)年3月 「新総合計画 川崎再生フロンティアプラン」 重点戦略プラン・実行計画

改革によってめざす川崎再生の姿を具体的に 示すとともに、「川崎市基本構想」に基づく7 つの基本政策ごとの具体的な取組内容と成果 目標を明示した3年間の計画

2005(平成17)年4月「川崎市自治基本条例」

地方分権の時代にふさわしい、新しい自治運営のルールとして、情報共有、参加、協働の原則を具現化する取組を着実に推進し、真の市民自治を確立

2007(平成19)年10月 「新・行財政改革プラン素案」

「元気都市かわさき」を実現する都市経営基 盤の確立を基本目標に新プランを策定中



2007(平成19)年10月 「新総合計画 川崎再生フロンティアプラン」 新実行計画(2008~2010年度)素案

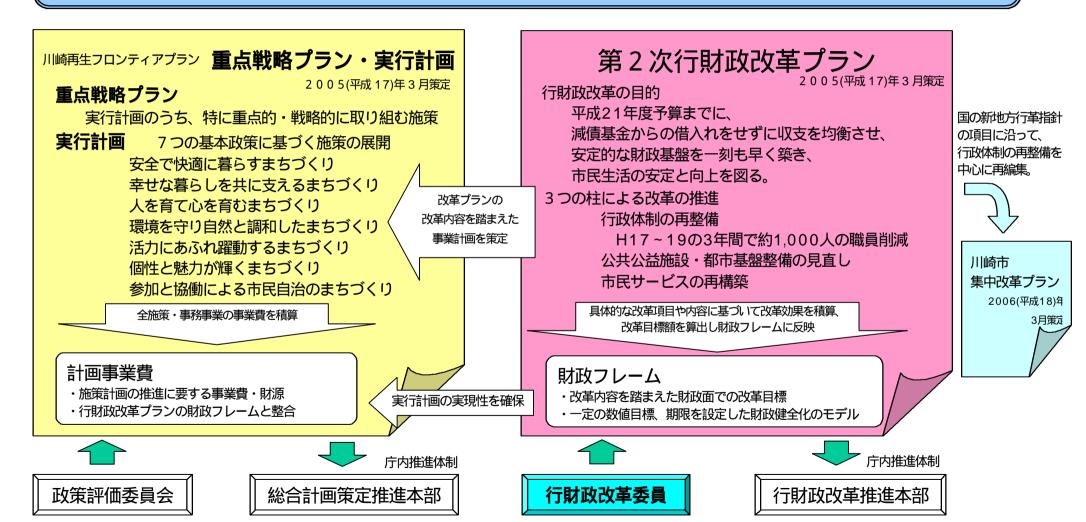
第1期実行計画に引き続く新たな計画を策定中

行財政改革プランと川崎再生フロンティアプランの関係イメージ図

新総合計画 川崎再生フロンティアプラン 川崎市基本構想

2004(平成16)年12月議決

まちづくりの基本目標 ...「誰もがいきいきと心豊かに暮らせる持続可能な市民都市かわさき」をめざして



改革の進捗状況の報告を受け意見を述べる

施策評価の結果等の報告を受け意見を述べる